

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500155		
法人名	特定非営利活動法人ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームこぶなと		
所在地	岩手県花巻市下小舟渡262-1		
自己評価作成日	平成27年7月15日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390500155-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

イギリス海岸近くの閑静な住宅街の一角にあります当施設は、法人理念「笑う、ほめるde元気になる」を基に平成24年4月に開設致しました。今年のテーマは「歩く」。各月ごとに違う目標を立て、利用する方の体力維持に努めると同時に、常に外に出ることで季節感を味わい、楽しみを感じてもらえるよう追及しております。スタッフ一人一人が利用する方に寄り添い、あたたかく、アットホームな雰囲気作りに努めております。また、スタッフには日頃から技術向上のために、資格取得を推奨し、研修会や勉強会を実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を具現化するために、理念を基に毎月具体的目標を職員によって設定し、利用者の支援に努めている。管理者も指示するよりも、職員の自発性を重んじて、職員のやる気を喚起し、利用者も含め、ホーム全体に笑いと明るい雰囲気が漂っている。職員間も良い関係にある。あくまでも、利用者本位を貫き、家庭的雰囲気を大切にしながら、現在、重点的に取り組んでいるのは、「歩く」をテーマに、「各々、笑いながら歩く」、「季節を感じて歩く」や、「何かを思い、感じながら歩くこと」に力を入れており、それを地域の人々との触れ合いの基盤にもしている。地域との連携は、自治会や公民館活動等を通じて良くなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた目標を立て、毎月の会議に必ず議題として取り上げている。目標達成のため、常に意識し、実践できるようにしている。	理念「笑うほめるDE元気になる」を具現化するため、職員一人ひとりが、毎月の目標を立て、支援にあたっている。今年は「歩く」をテーマに、「何を目標にして日常歩くのか」を考え、実践に結びつけている。理念に対するあり方は、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭参加や、地域ボランティア、散歩時での地域のひととの挨拶や会話を通じ、温かく見守っていただいていることを感じている。	こぶなと自治会に加入し、地域の正月行事や、八幡神社の祭り、公民館の文化祭や近隣の幼稚園、保育園の子どもたちとの交流、地域ボランティアの芸を観たりと、地域交流は盛んに行っている。また、日常の外出時に、住民と利用者との挨拶も交わされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会主催のうたの会や、市主催の「元気でまっせ体操」等、民生委員の方や自治会長を通じ定期的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1度会議を開き、サービス評価や、実践状況を報告している。時折委員に行事の交流の様子を見てもらふ機会を設け、日常の様子を知ってもらふ場としている。	定期的な会議は開催している。ホームからの状況報告に対する質疑及び意見提言も出ている。昨年、外部評価の際の「次への期待」についても取り組んでいる。今後、会議のテーマにより、ゲストとして、区長、警察署員、消防署員などの参加を検討することとしている。運営推進会議そのものは活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では市の担当者に出席していただき、具体的なアドバイスをしてもらっている。	運営推進会議委員として、市の担当課職員が交替で出席し、その都度、様々な話題を提供していただいている。市役所が近いこともあり、事務的な手続きや指導を受ける際には、直接、出向くことが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はその内容等を話し合い、職員全員理解している。日中の玄関の施錠はしておらず、夜間のみ鍵を掛けている。	拘束については、全般にわたって、全職員で学習に努めており、特に心理的(言葉による拘束など)なものに力を入れた取り組みをしている。ベッドを巡る柵の設置など、利用者自身の身体的危険にかかわることなので、本人や家族の了解の上で設置したことがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回は身体拘束についての勉強会を行っている。声掛けや接し方の確認をし合うとともに発生防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを通じ制度を学び、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にサービスの内容を十分に説明し、理解を求めたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「居室にポータブルを置きたい」など、本人・家族の要望を聞き、実行している。	利用者は日常の言動により、家族からは来訪時等に意見や要望等を把握し、運営に反映できるようにしている。睡眠不足、むくみなど、身体的なもの、精神的な相談等に対応している。利用者の状況により、家族と話し合い、病院を紹介し、療養により、寝たきりから、歩行器による外出となるなど、介護度についても改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議で職員の意見を聴く機会を設けている。	職員の自発性を運営の基本に据えており、職員の意見を最も良く反映させている。管理者が指示的に言うのではなく、職員が、東和の小規模多機能の職員と合同の研修会を持ちながら、サービスの質の向上に努めるなど、職員の自発性を重視した運営が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の目標を職員が交代で設定し、受け身ではなく、自ら進んで目標達成できるよう環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や防災管理講習に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花北ブロック会議に参加し、他施設と情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を可能な限り受け入れ実行している。また、より良い状態を目指し、本人と話し、処遇改善に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が職員に対し話しやすいよう、言葉遣いや笑顔での対応などを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前のアセスメントに重点を置いている。また、本人・家族との会話から、必要としているものを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の際は同じテーブルで一緒に会話しながら食べ、食後は食器の後片付けを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は居室などで家族の時間を大切にもらっている。職員、家族相互に情報交換し、本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は笑顔、挨拶でお迎えし、いつ、どんな方でも面会に来やすいよう心掛けている。	利用者の多くが、入居前には近隣に住んでおり、家族や兄弟の訪問が多い。日帰りの帰宅のほか、盆、暮れには実家に宿泊する利用者もいる。病院の受診は家事の同伴により行い、昼食、買い物を併せて行っている。花見、つるし雛、お祭り、文化会館の行事に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、午睡以外は全員がホールにいるため、利用者同士家族のような関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスが中断しても様子を伺いに訪問するなど、常に状態の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思や意向が表されない時には、具体的な例を示すなどして思いのくみ取りを心掛けている。	食事時に、利用者に話しかけ、希望などを聞いており、可能なものは即実現している。レクリエーションなどを提案し、職員、利用者共に楽しんでいる。ひな祭りでは、着物を着て、化粧をし個々に写真を撮影するなど、季節ごとにも意向を把握し、実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や家族との話を通じて、以前の暮らしぶりを聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録の充実に努めるとともに、職員間の申し送りを的確にし、常に情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議に加え、看護師や法人各事業所と合同の会議にも報告を行い、情報の反映を行っている。	担当職員から各利用者のニーズを出してもらい、全職員で検討し、プランに反映、家族の意見も踏まえ計画し、実践している。計画の見直しは6ヶ月ごとに実施している。この通常の計画と共に留意しているのは、計画にはなくても、やらなければならないことがあることを察知する視点を持つことである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、受診記録、スタッフ申し送りノートを利用して情報の共有を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	活動や身体運動面など、必要なことを家族と共有し、個別の状態に合わせられるよう取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館、神社、畑や堤防、そして街中に立地している利点を利用し、散歩や外食等日々にかかしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供書にて日頃の様子をお伝えし、医師との共有部分を増やしていけるようにしている。	利用者のかかりつけ医に、家族同伴で受診している。この際、個別に状況提供書を医院に提供している。遠方の家族については、同意を得て、職員が同伴している。精神科医については、利用者の状況をみて、家族の了承のもとに、医院を紹介し、受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付きノート、スタッフノートを共有し、また、変化があった際は報告を随時行い、様子を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への伺い、どのような介護が必要か、最善に近づくよう話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に施設での取り組み方法などをお伝えし、安心感をもって考えてもらえるようにしている。	重度化や終末期の対応については、契約時に説明し、家族の意向により対応することとしている。なお、看取り指針を作成している。本年5月に1名対応した。また、職員の知識と能力向上のため、関係医療機関による勉強会を法人として実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、救急時の対応、特変への対応を実践的に想定訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の方の参加型の訓練や、地域の方へ協力をお願いをその都度行っている。	避難訓練は、年2回、消防署の立会いの下に、近接の事業所の協力を得て、実施した。1回は夜間を想定して訓練を実施し、協力者には、避難した利用者の見守りを依頼した。今後想定される水害については、地域の見守り隊の協力や、市の対応について、協議を行なうこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁などをした利用者には指摘するのではなく、さりげなくトイレ誘導し、交換するなどしている。声掛けも人格を傷つけないように配慮している。	日常生活の中で、利用者と職員のコミュニケーションを取ることを大切にしている。利用者本意の言葉遣い、介護支援などの業務に当たっている。さらに、来所時の家族との話し合いなど、意向や希望などを伺っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者が何をしたいか、また、何が出来るかを考えた対応をしている。レクリエーションなども、やりたいことの希望を聞くなどして行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調も考慮しながら散歩や裁縫、習字、レクリエーション等利用者のペースで活動に参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容師に来てもらい、カットやカラーをしてもらっている。出かけられる利用者は家族や職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食後の片づけなどもしてもらっている。1ヶ月に一度は手作り昼食の日とし、うどん作りやカレー作りなど、積極的に利用者にも参加してもらっている。	メニューは、利用者の好みも踏まえながら、厨房担当の職員が決めている。月一度の手づくり昼食の日には利用者も参加して食事作りを行っている。日常的に、利用者も各々の能力に応じた参加の仕方をしている。昼食時、勤務中の職員は全員、利用者の間に入って共に食事し、会話等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は体重、体調の変動に合わせて調整している。食事を残す方には高カロリー食などで対応している。医師と相談し、必要な方には接種水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。一人でできない方には口腔ケアガーゼを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにトイレ誘導をしている。一人できない利用者には声掛け、見守り等で支援を行っている。	利用者の仕草から察知したり、介護記録排泄チェックを活用したりして、各々の利用者に応じ、さりげなく支援している。現在、布パンツ利用の方は1名、他の方は、リハビリパンツを使用している。改善の方向に向いている様子が見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にチェックをすることで便秘になっていないか一目でわかるように工夫している。予防として朝食時にヨーグルト、オリゴ糖等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックをし、体調や希望時間に合わせ調整を行っている。入浴剤を使用したり、職員との会話等楽しく気持ちの良い支援を心掛けている。	入浴時間は、13時から15時半で、一日おきの入浴となっている。ただし、日曜を除き、毎日入浴ができる準備をしていることから、希望があれば弾力的に対応している。入浴にあたっては、朝と入浴前のバイタルチェックによって、その可否の判断をしている。入浴時の会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間時は居室まで誘導し、布団をかけてあげるなど安心して眠れるよう支援している。室温、物音にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	うまく服用できない方には粉薬に変更してもらったり、トロミ剤を使うなど、工夫して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、食器拭き、裁縫など、出来ることをやっていただいている。時々気分転換も兼ねて職員と買い物にも出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日のように散歩したり、行事ごとの外出、地区の交流センターの行事に参加するなど、色々な人と協力しながら出かけられるよう支援している。	年間テーマである「毎日、笑顔、楽しい外出」を実施している。利用者の体力の向上(風邪引きなし)と、地域の住民との交流の機会ともなっている。冬期間は、スーパーなどの施設に出向くなど、毎日外出している。そのほか、季節の花見、お祭りや公民館のイベント参加、幼稚園の訪問を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物ができることを伝えており、その場合施設での立替により購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙も利用者の希望を聞いて、その都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色々な植物を飾ったり、室内の温度に応じてエアコンを利用している。転倒にも気を付け、歩行スペースを確保している。	職員にも利用者にも居心地の良い環境に配慮している。事業所での生活を家庭の延長と捉え、季節の飾り、イベントの写真、手作りの作品、絵画、植木などを配置している。そのほか、花作り(トランペット)や園児とのスイカ割りなども実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士等、希望を聞いて居場所を常に考え、利用者が安心できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみや思い出の写真、施設からの色紙などを飾り、リラックスできる空間であるよう心配りしている。	ベッド、布団のほか、備え付けのクローゼットを配置し、利用者の希望により、家族写真、ラジオ、ぬいぐるみ、チェスト、簡易トイレなどを持ち込んでいる。枕、タオルケット、毛布は持参としている。希望者には床マットでの睡眠に対応している。温度はエアコンで管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い廊下は毎日の歩行訓練の場でもあり、バリアフリーのため、シルバーカーでも安心して押して歩くことができる。		